

## 1 工程@1円～知的障害者の労働現場

### 37: カメラ

千葉 晃央

「ケータイは施設にいる間は禁止にしませんか？」

(マジで?!)

「カメラ機能の使用を禁止にしたらいいんじゃない？」

(えっ??)

る。そんなことがあっても施設への見学は止めることない。外部の目や、自分たちの取り組みを参考にしてもらえらるならと継続している。それが広く、利用者のためになる、業界のためになると考えているからである。

#### 施設見学でスパイ行為

携帯電話にカメラが付いているのが当たり前になって久しい。1999年がその登場という。今はスマホ時代、当然カメラがついている。多くの人が、常にカメラを持ち歩いている状況になって20年である。下請け作業の手順も写真や動画で記録したり、共有したりすることが多くなった。企業にいくとスパイ行為禁止のために携帯を預けたり、携帯カメラのレンズにシールを貼ったりということもあった。私の周辺の事業所でも、同様のケースが起こっている。施設に見学に来て、施設内の取引先に関する掲示物や商品そのものを見て、その会社に営業をかける。しかも「うちなら、あそこより、お安くやりますよ」といって。そんなことをすると当然その施設への地域での評価はがた落ちで、もう付き合いはなくな

#### スマホにおさめる施設の日常

当然、利用者の方々もスマホを持っている方が増えた。若い方がたくさん通う事業所では、休み時間にスマホを利用者がみているのは当たり前。その一方で、歴史ある事業所では、ベテランの年齢が高めの利用者の方が多いとスマホを持っているのは少数。また、スマホ、携帯電話で利用料金が高額になるような課金等のトラブルもあり、携帯を持っていたけどやめた方もおられる。

世間では外出やちょっとした場面をスマホのカメラに収めるのも、日常的な光景になっている。スマホ利用者の多い事業所(施設)でも、もちろん日常的になっている。特に行事に出かけた時や、職員が退職したり、施設の花が咲いたりした時に、その場面をカメラに収める。そこには他の利

用者の姿もあるし、職員の姿もある。日常の景色だから当然である。

### 写真を撮ってもいいか？

世の中には、盗撮や撮った写真を組み合わせるアイコラ（アイドルコラージュ）という行為がある。カメラが身近になるとこうしたものもついてくる。世間一般でもそういうことをするのはごく一部で、多くの人はそれが良くないこととわかっているのです。

知的障害者の労働現場でも、当然そういったことが起こってくる。そして、世間一般と同様、そういうことはごくまれ。そんなときにはそれをきっかけに話し合ったり、学び合ったりすればいいのである。

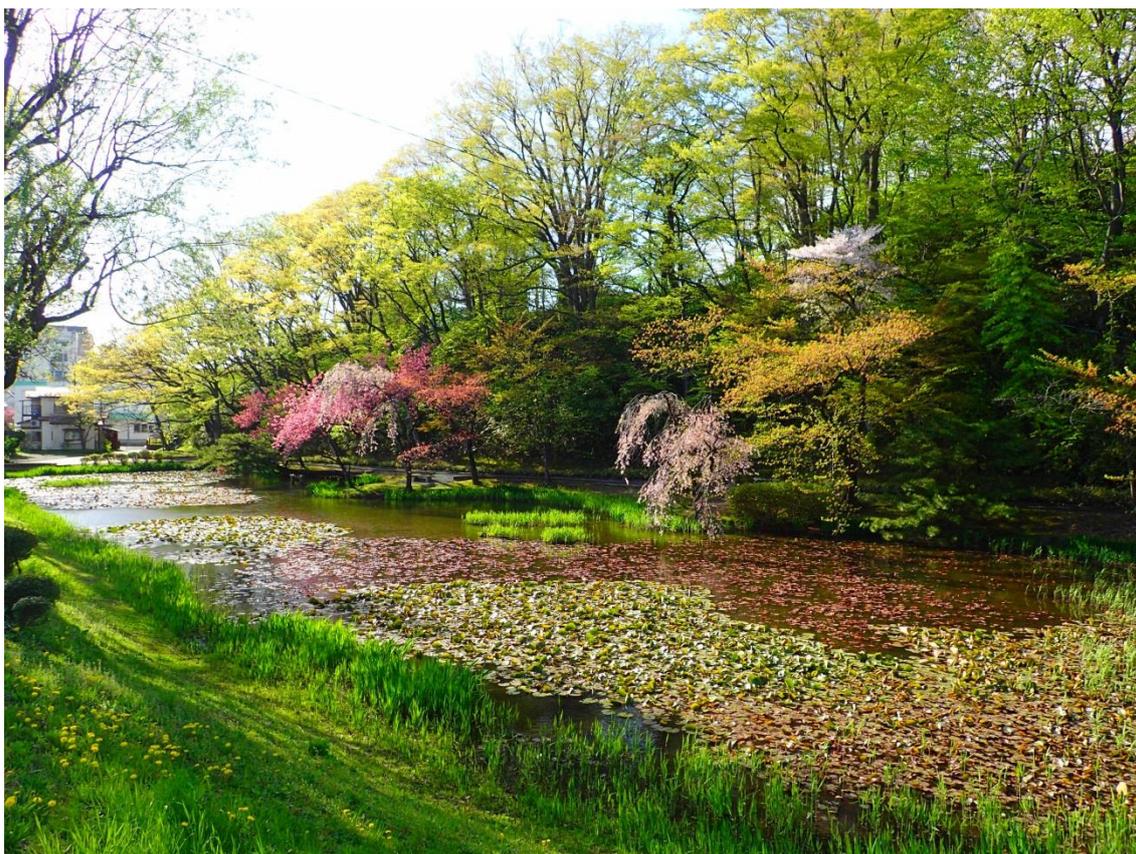
カメラマンといわれる方々は、人物を被写体にするときは相当気を使っている。「とってもいいですか」から、本格的にモデル料、そしてそこまではいかななくても、ちょっとしたお礼のモノを被写体になった方に配ったり、ポーズまでお願いするようなアマチュアモデルの撮影会形式があったりと幅がある。写真を撮るという行為には、こういった作法やマナーがあるということである。それを学ばばよいのである。

### 全面禁止！という甘い蜜

「ケータイは施設にいる間は禁止にしませんか？」

（マジで?!）

「カメラ機能の使用を禁止にしたらいいいん



ちやう？」

(えっ??)

…このような意見が現場から聞こえてくるのである。耳を疑う。学ぶことができな  
いと思っているのか？伝える手間を惜し  
んでいるのか？事なかれ主義なのか？何も起  
こらないということは起こらない。起こっ  
たことから経験し、学び、次につなげてい  
く。それがいいチャンスなのである。その  
時には、頭を突き合わせて、話し合い、学  
び合いを進めていく。決して、張り紙で「携  
帯禁止！」で終わりにしてはいけない。

これだけ普及したカメラ付きの端末。今  
後はスマホとネットと SNS が日常的にあ  
るのが当たり前の子ども時代を過ごした世  
代が大人になってくる。カメラに関して作  
法やマナーを学ぶことは、10年後を見据え  
れば、避けては通れないし、起こったとき  
に取り組むことがそのタイミングである。  
何度も繰り返し、定期的に話題にすること  
も含めて、根気よく、取り組む必要がある  
だろう。自分たちの取り組みを記録して  
もらえるのは、ありがたいことである。何年  
たっても、また思い出してもらえるのであ  
る。そのためには、ますます支援の質にこ  
だわらなければならない。

### カメラで被害を訴える

カメラと上手に付き合うことは、今の社  
会生活に必要な要素の一つともいえる。こ  
れは、利用者を守ることもある。録画機能  
があれば当然録音機能もある。職員のひど  
い言葉がけを録音し、世に訴えることもで



きるかもしれない。利用者自身が障害者虐  
待の場面を録画し、被害を訴えることもで  
きる。これまでは虐待場面は、正義感溢れ  
る職員や家族がその場面を盗撮して、それ  
が世に出た。それが障害者虐待が明るみな  
ったことがいくつもあった。

いつも障害者は「被写体」であったので  
ある。その方々自身がカメラを使い、記録  
する。自分自身が証人になるのである。

カメラは、日常のちょっとした思い出を  
残したり、共有できたりするのが非常に便  
利である。施設での経験をそう扱ってもら  
えるよう、よい時間を提供したいものであ  
る。

そんな私も作業場にカメラをつけるのは  
反対である。その話は、また別の機会に…。

**BACK ISSUES**

- 2011年9月
- 旅行がない!5 2011年6月
- 職員の脳内回路4 2011年3月
- たかがガムテープ、されどガムテープ3  
2010年12月
- 利用者が仕事上の戦友2 2010年9月
- 障害者自立支援法で不景気に!?! 2010年6月
- 窓を救え!36 2019年3月
- 別れ35 2018年12月
- 人生をかける意味があるか?34 2018年9月
- 業務の適正化はできるのか?33 2018年6月
- 安全衛生委員会32 2018年3月
- 施設というコミュニティ31 2017年12月
- 職場づくり30 2017年9月
- 健康管理29 2017年6月
- 音28 2017年3月
- 救世主になりたい援助職27 2016年12月
- 事件について26 2016年9月
- クルマ社会と福祉政策25 2016年6月
- 施設が求める「障害者像」はあるのか? 24  
2016年3月
- 連絡帳23 2015年12月
- におい22 2015年9月
- 作業着21 2015年6月
- 食べる20 2015年3月
- 通勤19 2014年12月
- クスリの作用、人の作用18 2014年9月
- 倫理観でかたづけられる暴力17 2014年6月
- 触れる16 2014年3月
- 対談企画「教育と福祉の連携を模索する」2014年3月
- 情報の格差15 2013年12月
- 20年前のノートから14 2013年9月
- そうじのねらい13 2013年6月
- 個別化の暗部12 2013年3月
- グループワークの視点11 2012年12月
- 実習生がやってきた!10 2012年9月
- 月曜日のせいやな9 2012年6月
- 所得を決める福祉職?8 2012年3月
- 世界とつながる社会福祉現場7 2011年12月
- この現場へのたどり着き方6 2011年9月
- 障害を持つ友達と過ごすとは?巻末座談会